

今年度も上伊那教育研究会Ⅱにおいては、キャリア教育に関わる分科会がありました。その中で、創造館学芸員の濱 慎一さんから、上伊那図書館の歴史について大変興味深い話をお聞きしましたので、内容をお知らせしたいと思います。身近な事でありながら意外と知らないこの事実。ぜひ、ご一読ください。

上伊那図書館の歴史にせまる！！

図書館建設のピンチを救った

武井覚太郎さん

昭和5年に建てられた上伊那図書館。上伊那の人々に愛された図書館でしたが、いったいどんな歴史をもっていたのでしょうか？武井覚太郎さんとは？

上伊那図書館がつけられた時代

昭和初期・・・一般的な人の月給は、50円

当時の1円は現在の5,000円の価値

そんな時代で、本はとても高価なものだったそうです。例えば「ガリバア旅行記」が、今の金額でいうと、なんと**19,000円**もしました。

上伊那図書館建設に関わって

日本に図書館と呼べる施設がほとんどなかった時代に、上伊那の教育のために図書館をつくらうという動きが、大正10年、学校の先生たちからおこりました。呼びかけは、学校の先生たちだったのです。

さらに、先生たちは、自分の給料を図書館建設費用にするために寄付しながら、20万円（現在の貨幣価値で10億円）の寄付金を集めて図書館を建てようと考えました。10万円で建物、10万円で運営しようと計画していたそうです。

そこで、上伊那郡下の小中学校、全職員が2年間、月給の200分の1を寄付金としました。

先生方の強い思い、心意気が感じられます。

<全国的に見ると>

本格的な図書館は、明治30年、東洋一の図書館をめざし「帝国図書館」が誕生しています。そして、昭和4年には、県立長野図書館ができました。上伊那図書館はというと、その1年後に開館することになります。



しかし、寄付金といっても、やはり、そう簡単に集まるものではありませんでした。図書館建設にあたっては、まさにピンチを迎えていました。

そんな時に、上伊那図書館の建設費用全てを寄付した方がいました。

その名も **武井覚太郎さん**。辰野町の大実業家です。

図書館建設のピンチを救ってくれたのです。

☆建設費用 14万円（現在の7億円）

☆本 約3000冊 1万円（現在の5000万円）

覚太郎さんは、本の充実のために、3000冊もの本も寄付しました。寄付した本は「武井文庫」として現在も残っています。

武井覚太郎さんの紹介

明治元年、宮木村（現辰野町）に生まれる。大正9年、片倉製糸と合併して常務取締役となり、昭和5年、上伊那銀行頭取をはじめ、種々の会社役員、さらに伊那富村長、長野県会議員、貴族院議員と政界でも活躍した。

実業で活躍するかたわら、郷土を愛し、公共のために数々の事業を行う。育英事業で人材の養成、伊北農蚕学校（現辰野高校）の創設、上伊那図書館建設等、有意義と思うことに金銭を惜しまず投じた。

欧米への視察をして、図書館や学校の大切さ、将来を担う子どもたちへの教育の大切さを知っていた。寄付金も教育関係のものが多し。

他に寄付された方々

そうはいつでも、覚太郎さんだけでなく、**実はいろいろな人が大金を寄付していました。**

内藤頼輔さん、伊澤多喜男さん、橋本福松さん、・・・

上伊那郡内、207名から寄付がありました。

岩波茂雄さん（岩波書店創業者）など、郡外の人からも寄付がありました。

多くの実業家、出版社、地域の人たち、学校の先生たち、そして、行政・・・

みんなで、子どもたちの教育のために、お金や本を出し合っていたのです。その総額は、なんと約5万円（現在の2億5千万円）

ここに「**産、官、学、地域が連携して、子どもたちを育てる**」という、現在のキャリア教育に繋がる**ところがあった**ということです。

上伊那図書館は昭和5年12月に開館。戦後、文化・教育の中心でした。

上伊那図書館から伊那市創造館へ

現在は、市有形文化財として、大切に活かしている。キャリア教育の現場としても有効利用しています。

【分科会に参加された感想から】

- ・上伊那図書館の設立が産官学のキャリア教育の先がけになっていた様子がよくわかりました。現代でも、今後の社会動向を見据えて、今の子どもたちが豊かな国をつくっていくために必要なものは何か、常に産官学の大人たちが考えていく必要があると感じました。
- ・大変興味深い話で、図書館の歴史とともに地域の人々が歩んできた想いや願いに触れることができ感激しました。
- ・武井覚太郎の偉大さを改めて感じました。上伊那図書館の歴史的意義よくわかりました。
- ・産官学が一つになってすすめている上伊那のキャリア教育、その源泉が上伊那図書館にまつわる人のつながりにあることを強く感じることができました。
- ・上伊那図書館の建設にあたって力を注いだ方が、武井覚太郎をはじめ、こんなにたくさんいたとは、恥ずかしながら知りませんでした。もっと多くの方に知っていて欲しいことだと思いました。